

日本労働年鑑 第58集 1988年版
The Labour Year Book of Japan 1988

第四部 労働組合と政治・社会運動

I 社会保障闘争

概要

☆ 八七年九月一九日に閉幕した第一〇九回臨時国会では、マル優廃止反対と結合して、継続審議になっていた公害健康被害補償法改正案、労働基準法改正案、国立病院等再編成特別措置法案に反対する闘争が展開された。

☆ 国民健康保険の「保険証未交付」にたいする全国的な運動、札幌での「母親餓死事件」を契機に広がった生活保護など「福祉・扶助」に関する人権を守る運動、「国公立病院の移譲・統廃合」に反対する国民医療を守るたたかい、公害健康被害者など、きびしい状態に追いつめられている、いわゆる社会的弱者や住民が前面に立つて、運動が展開された。

☆ 一部を除き組織労働者の運動は低調であった。だが、老人保健法や退職者医療などへの拠出金増額や「中間施設」の問題を通じて、現役労働者と高齢者のかかわりが明らかになり、高齢化社会に向けて協力共闘の必要性は自覚されてきている。

☆ 高齢化の進行とともに、高齢者の生活改善を求める運動が一段と高揚したのも、この年の特徴である。従来の中・一五高齢者集会に先駆けて、九月一～二日、医療生協や全日自労など二一団体が実行委員となり、多くの学者・専門家などの協力をえて「高齢者京都大会」が開催された。これを契機に、四〇都道府県で高齢者組織が結成されるようになった。

日本労働年鑑 第58集 1988年版

発行 1988年6月25日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 労働旬報社

****年**月**日公開開始

■ ←前のページ 日本労働年鑑 1988年版(第58集)【目次】 次のページ → ■
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)